

輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）

愛知県・（一社）名古屋コーチン協会、品目：名古屋コーチン鶏肉

1. 輸出における現状と課題

- 現状**
- （1）名古屋コーチンの歴史と特徴
 - ①「名古屋コーチン」は、明治時代に元尾張藩士が改良を重ねて作出した日本を代表する地鶏。
 - ②外国産の種鶏の普及による影響を受けたが、昭和40年代以降生産が伸び、現在は年間出荷羽数100万羽前後。
 - ③名古屋コーチンの肉質は弾力に富み、よくしまつて歯ごたえがあり、「こく」のある旨みが特徴。
 - （2）これまでの輸出の取組
 - 2017年から香港向けが始まり、年々拡大傾向（2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で減少）。
 - （3）ターゲット国のニーズ
 - 輸出先国の富裕層への販売、現地消費者がそのまま購入できる小分けした商品への転換。
- 課題**
- （1）生産体制 需要に対応した生産羽数の確保、改良増殖による増体。
 - （2）加工処理施設 輸出国の衛生基準を満たした施設整備、消費者ニーズに合わせたパッキング。
 - （3）流通など 効率的な輸出物流ルートの確立、新たな輸出先の開拓。

2. 輸出事業計画の取組内容

- （1）生産体制
 - ①生産性の向上に向けた名古屋コーチンの改良増殖 愛知県農業総合試験場、愛知県畜産総合センター種鶏場
 - ②生産効率が高い新種鶏場の整備による種ひな供給能力の向上 強い農業・担い手づくり総合支援交付金の活用
 - ③生産農場での鶏舎の増設 畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業の活用
- （2）加工処理施設
 - ①国ごとに異なる輸出基準対応施設
 - ②消費者ニーズに合ったパッキング装置等の整備 食料産業・6次産業化交付金の活用
- （3）流通など
 - ①流通コストの圧縮 輸出関連事業・食品等輸出物流ルート確保緊急対策事業の活用
 - ②新たな輸出先の確保 JETRO相談窓口の活用

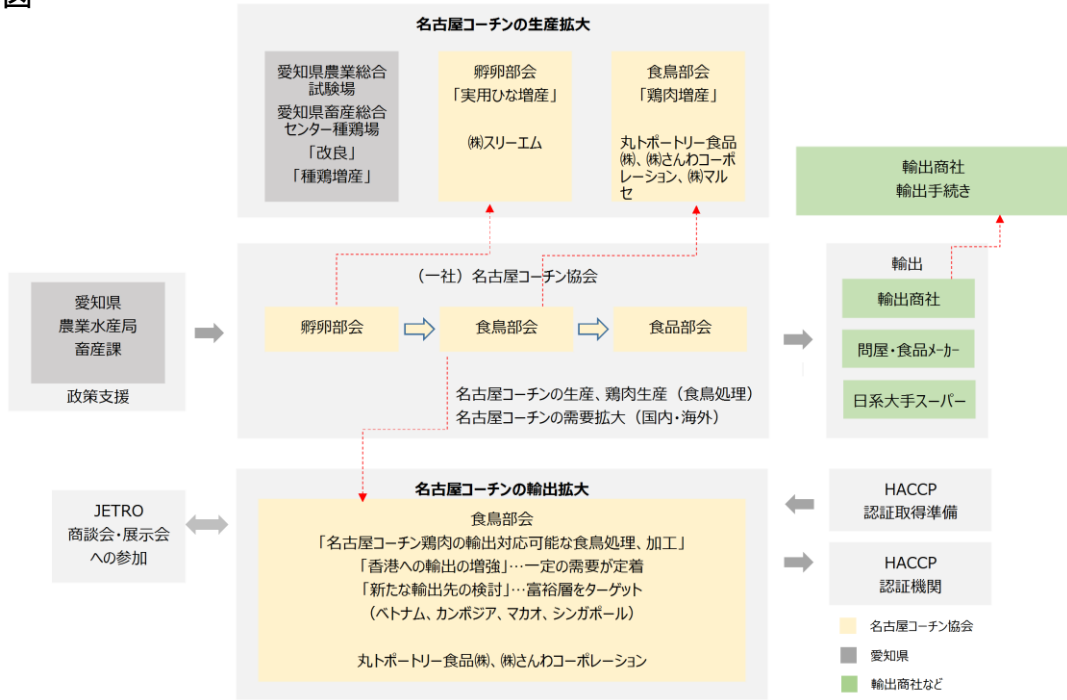
3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

PDCA実施体制



3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

連携体図



4. 輸出目標額

